

女子競技者の競技に対する意欲の低迷から

復調に至る過程に関する事例的研究

－砲丸投競技者の大学進学以降に着目して－

齋藤 友里 (筑波大学)

1. 目的

本研究の目的は、女子競技者に起こりうる競技に対する意欲の低迷・低下・復調の原因を明確にするとともに、効果的なコーチングへの示唆を得ることであった。

2. 研究方法

- 1) 対象者 大学4年間で競技に対する意欲が低迷、低下し、その後復調に至った砲丸投を専門とする女子競技者1名
- 2) 調査および分析方法 インタビュー調査を行った。その調査を基に、質的研究法である複線経路・等至性モデル (Trajectory Equifinality Model: TEM) を用い、TEM図を作成した (図1)。

3. 結果と考察

- 1) 大学進学後、競技に対する意欲が復調しなかった要因として、「内側から湧き起こるモチベーションの欠如」と「成長に対する意欲が湧かない環境に在ったこと」が挙げられる。競技に対する意欲を維持するためには、定期的・中・長期的な目標を立てることが必要であると考えられる。
- 2) 低迷からさらに低下した要因として、女性と競技者の狭間で葛藤していたことが挙げられる。体重増加が必要不可欠であると気づいていながらも、身体を大きくしたくないという心理状況に陥る可能性が女子砲丸投競技者において誰にでもあり得ると推察される。また、女子砲丸投競技者はそのような葛藤が生じることを理解したうえで競技に取り組むこと、指導者は指導

を行うことが必要であると考えられる。

- 3) 低下から復調した要因として、選抜合宿を通して普段所属している集団とは異なる他大学の投てき競技者と交流し、彼らの競技に対する意識に感化されたことが挙げられる。時には普段関わることのない競技力の高い集団と練習や生活をともに過ごし、他競技者の価値観に触れる機会を作ることが必要であると考えられる。
- 4) 復調後の競技に対する意識・行動の変化として、競技に対しての楽しさを感じ始めたことが挙げられる。その結果練習量が増え、強度が高まっていく中で、ケガを防ぐために身体への負担を考慮することが重要であり、練習の量や強度に相応するケアを行っていく必要があると推察される。

4. 結論

高体重が求められる女子砲丸投競技者は形態的な変化に対する葛藤を抱く可能性があると考えられ、それを理解して競技と向き合う必要があると推察される。また、時には普段関わることのない競技力の高い集団と練習や生活を共にし、他者の価値観に触れる機会を作ることが競技意欲の向上に必要であることが示唆された。

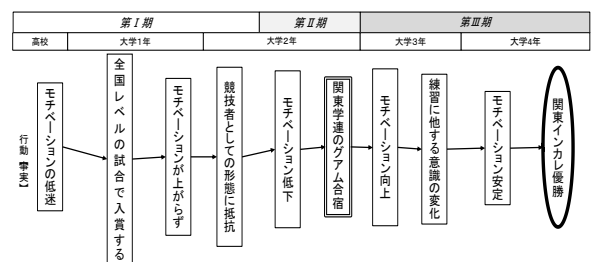


図1. 簡略化した TEM 図